# ３［小説］ひさし『』

──戦後すぐの時代、主人公の「ぼく」が入っていた孤児院では、その年から全日制の公立高校にも進学することが許された。定時制にしか進学が許されなかった、すでに高校生のたちはそれが面白くなく、中学三年生の主人公らに暴力をふるって全日制への進学を辞退するように迫り、それに従わないぼくにはさらに嫌がらせを重ねてきていた。──

　入学試験の前々日、寒さがぶり返し、大雪が降った。ベッドに単語帳を持ち込み、をかぶって、暗記に精を出していると、だれかがやってきて、ベッドの前に立ちどまった。こっそり布団を持ち上げてみると、立ちどまった①やつのから下の部分が、目の前にあった。ズック靴に「船橋」と名前が書いてある。いものがつうんと鼻を衝いた。殴られ蹴られする前に、ぼくには必ずこの予徴があるのだった。殴られる瞬間のあの時間の長さ。どんなに素早く殴られても、あの一瞬、時の流れはずいぶんゆっくりとたゆたい、はのろのろと迫ってくるのだった。②むろん、逃れられはしない。どのくらい痛いだろう？　このあいだぐらいか？　いやもっとずっと耐えられないぐらい痛いだろう……そんなことをい早さで自問自答しながら、ただ待っていなければならないのだ。胃の底のあたりにしゅうっと寒けがし、ついで吐き気がし、世の中がてんでんばらばらに思え出し、深い没落感に襲われる。③あのいやな一秒。それがどうやらまたやってきそうだった。④ぼくは素知らぬふりして、単語の暗記を続けていた。しかし、頭の中には、いつ来るか、どう来るか、このふたつの考えしかなかった。船橋はまだっと立っていた。とうとう、耐え切れず、ぼくは布団から顔を出した。

「よう……」

　船橋はぼくに⑤笑いかけていた。

「な、なんですか……？」

「講堂に来ないか？」

「なにしに……ですか？」

「遊ぶんだよ」

「……遊ぶ」

「そう。ひと汗かこうよ」

「で、でも、ぼくはえることがまだたくさん残っているんです。試験日はなんです」

「いっとくけどな、いまさら、何を憶えたって無駄だよ」

「ど、どうして？」

「おまえは試験には行けないね」

「なぜですか?!」

「おれたちが行けないようにしてやるからさ」

　船橋は左手をぼくの鼻先にしゅっと伸ばし、右手で自分の口を保護した。それから、ａエモノに接近する毒蛇のように、しゅっしゅっしゅっとｂマサツ音を発しながら、ぼくの顔面の極く近くへ、数回、素速くジャブを送ってきた。

「べつにそう怖がることはないぜ。今日はグラヴをつけて殴り合うんだから。ｃ隙があったらおれはおまえに、グラヴを叩き込む。もちろん、おれの隙をついて、おまえも殴って来ていい。正々堂々と殴りあうんだ」

　船橋はそういうと、一九十の高さから、ぼくのｄエリクビをみあげてベッドからりおろし、講堂に引っぱっていった。

　講堂には斎藤たちが待っていた。はぼくの両手にいそいそと、あの心やさしい将校たちがｅキゾウしていったグラヴをくくりつけた。誰か止めに入ってくれないだろうか。周囲を見回したが、小学生たちが数人、見物人気取りで、を飲みながら眺めているだけだった。船橋の様子を盗み見ると、彼はもう講堂の柱を仮想の相手に、下から、横から、正面から、続けざまにグラヴを繰り出していた。注射を受けようとする臆病な患者が、アンプルを切る準備中の医師からなかなか目を離せないように、ぼくも船橋から目を離せなかった。船橋の姿がぼくに迫り、遠のき、また迫った。すでにぼくは⑥遠近感覚を失ってしまっているらしかった。

●語注

心やさしい将校＝少し前に、進駐軍の将校たちが、スポーツ用品やゲームなどを大量に持って慰問に訪れていた。

アンプル＝おもに注射液を入れるのに用いられる、ガラス製の小型の容器。

■覚えておきたい語句

□２精を出す………………根気よく働く。熱心に励む。

□７自問自答………………自らの問いに自ら答えること。

□35生唾を飲む……………おいしそうなものや酸っぱそうなものを見た時に、自然に口の中にたまる唾。

◆漢字　本文中の二重傍線部ａ〜ｅのカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで記せ。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　波線部の説明として最も適当なものを次から選べ。（6点）

ア　空腹でお腹が空いて唾を飲みながら

イ　なにかを口の中で食べながら

ウ　早く決着がついてくれと思いながら

エ　早くボクシングを見たいと思いながら

オ　いじめの状況をゆっくりと楽しみながら

　　〔　　〕

問２　傍線部①とあるが、「ぼく」が「やつ」と呼んでいる理由として最も適当なものを次から選べ。（7点）

ア　来たのが船橋だとわかっていたから。

イ　誰であっても自分にとっては勉強をじゃまする敵だから。

ウ　孤児院中の全員が敵対心を持って接してきていたから。

エ　来るのは嫌がらせに決まっているような状況だったから。

オ　焦臭いものが鼻を衝いたので殴られるとわかったから。

　　〔　　〕

問３　傍線部②「むろん、逃れられはしない」のは、相手がどうだからか。簡潔に答えよ。（8点）

　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　傍線部③を具体的に説明している一文を本文中から抜き出し、その最初の七字を答えよ。（句読点除く。）（７点）

［　　　　　　　］

問５　傍線部④とあるが、その理由として適当でないものを次から一つ選べ。（7点）

ア　また来たか、と思いつつ、どうしようか思案していたから。

イ　やられるしかないとは思いつつも、できたら相手にしたくなかったから。

ウ　勉強に比べたら、殴られることはたいしたことではないとアピールしたかったから。

エ　もしかしたら、何事も起きずにすむ可能性もあると信じたかったから。

オ　自分からなにか行動して相手を刺激したくはなかったから。

　　〔　　〕

問６　傍線部⑤から、ぼくは船橋の様子をどのように受け止めているか。適当でないものを次から一つ選べ。（7点）

ア　相手は決して自分から逃げられないという、落ち着き払っている様子。

イ　こてんぱんにできるという、勝利への絶対的な自信たっぷりの様子。

ウ　思ったとおり、我慢しきれずに布団から出てきたぞ、とほくそ笑んでいる様子。

エ　何とかしてぼくを講堂に連れ出そう、と演技をしている様子。

オ　スポーツを隠れ蓑に、公然と殴れるぞと楽しみ喜んでいる様子。

　　〔　　〕

問７　傍線部⑥と感じるほど、「ぼく」の恐怖心が高まってしまったのはどうしてか。本文全体を踏まえて、簡潔に答えよ。【読みのセオリー】（8点）

　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

【解答】

漢字　ａ獲物　ｂ摩擦　ｃすき　ｄ襟首　ｅ寄贈

問１　エ

問２　エ

問３　同じ孤児院の上級生（高校生）であり、圧倒的な体格差のある相手だったから。

問４　どんなに素早く

問５　ウ

問６　エ

問７　一瞬殴られるか蹴られるかで終わると思っていたのに、ボクシングを口実に殴られ続けなければならない状況に陥ってしまったから。

【読みのセオリー】

★心理の変化は、状況の変化からおさえる

　本文中における、主人公の心理の変化が問われているときは、心理が変化する理由があるはずであり、それは状況の変化である。だから本文中での状況の変化を丁寧におさえてみることで見えてくる。

【現代文読解用語200】

問　次の言葉の意味をそれぞれ後から選べ。

⑧ステレオタイプ（　　）

⑨エキゾチック（　　）

⑩アイデンティティ（　　）

⑪エスプリ（　　）

⑫エポック（　　）

⑬コンテクスト（　　）

⑭レトリック（　　）

⑮デフォルメ（　　）

⑯コミュニティ（　　）

⑰シンボル（　　）

⑱モラトリアム（　　）

ア　青年が社会で一定の役割を引き受けるようになるまでの猶予期間。

イ　機知・その場に応じて働く才知。

ウ　対象を変形させて表現すること。

エ　時代・新時代

オ　異国の情緒や雰囲気のあるさま。

カ　修辞

キ　共同体

ク　文脈

ケ　自己同一性

コ　象徴

サ　型にはまった考え方。

【解答】

⑧サ　⑨オ　⑩ケ　⑪イ　⑫エ　⑬ク　⑭カ　⑮ウ　⑯キ　⑰コ　⑱ア

〔場面解説〕

戦争で父を失い、母はぼくを孤児院に、弟を中華料理店に預け、借金をして屋台で稼いでいる。全日制の高校への進学に関して、定時制の高校にしか行くことが許されなかった船橋たち高校生から、ぼくは嫌がらせを受けるが屈しない。それが彼らを逆上させ、嫌がらせの暴力やいじめは激化していくが、世話をしている修道士は気がつかない。

〈作者＆出典〉井上ひさし（いのうえ・ひさし）一九三四（昭和9）～二〇一〇（平成22）年。山形県生まれ。幼少期はカトリック孤児院に預けられた。上智大学卒業。小説家（『』『青葉繁れる』など）としてだけでなく、テレビドラマ作家（「ひょっこりひょうたん島」など）や舞台脚本家としてなど、多方面で活躍。本文は、「」『四十一番の少年』（文春文庫、一九七四年）より。

この本文の後、弟からの葉書の汚点が大きくなったことから、弟の窮状を察して、助けるために迎えに行く。

☆「セオラム　補充問題」問題は次の３種類があります。

　＊差し替え　　　……　当該の問と差し替えるもの

　＊追加　　　　　……　同じ問いで追加された問題

　＊新問　　　　　……　追加が可能な新たな問題

＊問２差し替え

問　傍線部①とあるが、立ち止まった者を「やつ」と呼んでいるのはなぜか。簡単に説明せよ。

［答］　自分の所に今来るのは嫌がらせをする高校生だとしか思えない状況だったから。

＊問３差し替え

問　傍線部②とあるが、なぜ「逃れられない」のか。最も適当なものを次から選べ。

ア　足が遅くて、逃げきれる自信がとてもないから。

イ　布団に潜っていて、逃げるチャンスがないから。

ウ　上級生が殴ってきたら、ただただ待つだけなのが孤児院での暗黙のルールだから。

エ　上級生で、圧倒的な体格差のある相手だから。

［答］　エ

＊新問

問　21行目「何を憶えたって無駄」なのはどうしてか。

［答］　ボクシングという名目で、試験を受けに行けないところまでこてんぱんにやっつけようと思っているから。

＊新問

問　僕が船橋の行動を恐れていることが端的に表現されている比喩表現を本文中から抜き出せ。

［答］　エモノに接近する毒蛇のように（26〜27行目）

■小説の場面把握　★時・場・人物・事件は小説の基本

《　時　》　戦後すぐ・冬・公立高校入試の二日前

《　場　》　孤児院

《人　物》　ぼく…中学三年生

　　　　　　船橋…高校生

《事　件》　定時制にしか行けなかった船橋たち高校生に、全日制の入試を受けようとするぼくは嫌がらせのいじめを受ける。

■場面解説■

戦争で父を失い、母はぼくを孤児院に預け、弟を連れて中華料理店に住み込みの出稼ぎに出る。母は中華料理店から費用を借用して、屋台を出して働くことにし、弟を中華料理店に預ける。孤児院に残されたぼくは、全日制の高校への進学に関して、定時制の高校にしか行くことができなかった船橋たち高校生から、嫌がらせを受けるが屈しない。それが彼らを逆上させ、嫌がらせの暴力やいじめは激化していくが、世話をしている修道士はなかなか気がつかない。